

I 事業の概要（地域の実情含む）

本校は、久慈市の中央にあり、久慈湾に流れ込む久慈川に沿った平地に位置する。平成28年の台風10号豪雨では、久慈川が氾濫し学区に流れ出したことにより、多くの児童の家庭で浸水被害を受けた。

昨年度は、「いわての復興教育スクール」の指定を受け、4年生を中心に、被災地を見学したり専門家のお話を伺ったりして防災についての学習に取り組んだ。また、久慈中学校及び県立久慈東高校と避難訓練の様子を見合ったり災害発生時の対応について確認し合ったりするなど、連携して取り組みを進めてきたところである。

今年度も4年生を中心に復興教育を進めていくこととし、震災学習列車に乗車し、復興の様子を実際に見たり、防災施設や防災センターを見学したりすることを通して、久慈地域がどのような被害を受けたのかを再確認しながら、自然災害への心構えや自分のこれからの生活のあり方について考える。

II 取組の概要

- (1) 東日本大震災による被害について知る。
(久慈東高校とのNIE連携学習)



【連携学習の様子】

高校生が作った壁新聞をもとに、東日本大震災の被害の状況について教えてもらい、地震や津波などの自然災害の怖さについて考えたり、これから自分たちが気を付けていかなければならないことは何かを考えたりした。

<児童の感想>

- ・東日本大しん災の名前は知っていました。宮古には何度も行っているけど、こんなにひがいがあったことは知りませんでした。
- ・22.2m（150cmの人、14人分の高さ）の津波がきたことを初めて知りました。
- ・みんなが命を落とさないようにしたいと感じました。自分の身は自分で守ろうと思いました。

- (2) 久慈市でも水害や震災の被害があったことを知り、防災・減災について興味を持つ。
- (3) 学校の防災・減災の工夫や施設について学習する。
- (4) 久慈市や久慈地域の防災・減災の工夫や施設について学習する。
- ア 久慈市や久慈地域の防災・減災の工夫や施設について知りたいことを明確にし、課題を設定する。
- イ 震災学習列車を活用した学習
- (ア) 学校から久慈駅まで貸し切りバスで移動
- (イ) 久慈駅から田野畑駅まで震災学習列車による学習



【震災学習列車での学習の様子】

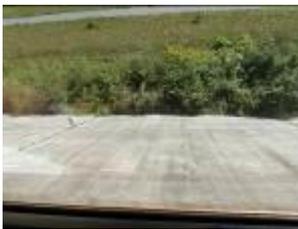
貸切列車で移動しながら、係員の方から震災当時の状況を伺ったり、震災前と震災後の地域の様子の違いを、写真や車窓から眺める景色をもとに説明していただいたりした。

<見学メモから>

- ・ 東日本大しんさいで、たくさんの人が亡くなった。16000人をこえる人が亡くなった。
- ・ 7年たっても家に帰れない人が多くいる。
- ・ たくさんの人が亡くなったことを教えていくことが大切だから、しんさい学習列車ができた。
- ・ 津波の高さは、へいきん10mくらい。野田から、9kmくらい行く。
- ・ 野田にきた津波は、30メートル以上だった。
- ・ 野田の保育園の、100人以上の園児や先生、全員がたすかった。理由は、ひなんくんれんをしっかりしていたから。
- ・ 自分の地いきのひなん場所をかくにんしておく。ひなん場所のピンポイントを決めておく。(だれかがいなくなってしまう。)
- ・ 三陸鉄道の線路は、かべになっている。そのかべは、作り方がちがう。海側は平らで水はけをよくして、陸側はでこぼこして津波の水が弱くなるようにしている。
- ・ 車でにげるのはあぶないので、車でにげない方がよい。



【津波後地に作った公園と建築中の防潮堤（野田村）】



【線路を支える土台部分の海側（左）と陸側（右）】

- (ウ) 田野畑駅で下車後、バスで普代水門に移動
- (エ) 普代水門（津波防災施設）見学



【津波防災講座の様子（普代水門）】

(オ) 普代水門から久慈市防災センターまでバスで移動

(カ) 久慈市防災センター見学

(キ) 久慈市防災センターから学校までバスで移動

(ク) 集めた情報を分類・整理し、気付いたことや分かったことをまとめる。

(4) 調べたことをマップにまとめ、地域の復興状況や防災・減災についての発表会を行う。



【発表会の様子】

これまでの学習のまとめとして作成したマップをもとに、グループごとに調べたことを発表した。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- ・ 震災学習列車の車窓から津波被害による土地の変化や野田の堤防建設の様子を見たり、普代水門の震災当時の様子を知ったりすることで、東日本大震災の被害や復興の様子を再確認することができた。
- ・ 防災施設の大切さを学ぶとともに、防災施設に頼るのではなく、自分の身は自分で守るという意識で率先避難する大切さを学ぶことができた。

2 課題

- ・ 継続的に児童の防災学習や復興教育を実施していくこと。
(震災学習列車を利用した学習には、車両借り上げ等の費用が必要となる。)
- ・ 久慈中、久慈東高校との連携をさらに深め、家庭や地域と連携した取り組みを工夫していくこと。